

2月22日（金） 1階多目的室 9：00～9：40

- 1 題材名 12年間の経験から考えること（感情）
- 2 考える価値内容 自己
- 3 題材について

（1）本題材に関わる子どもたちの履歴 —広い視点から自己の視点へ—

今年度の6年生のてつがくには、自分たちのことを客観視して対話を始めるという特徴がある。対話が始まると、まず前提条件を確認する。予め条件を揃えておかないと、対話が噛み合わなくなることを経験的に捉えているからである。

1学期から2学期にかけて、地球の視点から人類を考えたり、奇跡や偶然について互いの考えを比べ合ったりすることを続けてきた。自己を離れて広い視野でてつがくのテーマについて考える経験をしてきた子どもたちは、2学期後半から「友達」をテーマに対話を重ねた。（2内容—(2)ウ・エ）

抽象的な話題が多かった1学期に比べ、日常の具体的経験を根拠にした話をしてきたことが、2学期でのてつがくの特徴である。3学期には「普通とは何か?」「感情とは?」と、2つのテーマを選んだ。

（2）12年間の経験から「感情」を考える

感情は誰もがもっており、当たり前すぎて普段意識することも少ない。「あ、今自分はイライラしているな。」「ちょっと幸せだな。」と子どもたちが感じる時も、それを客観的に捉え、言語化することはそれほど多くない。では、その捉えようとしてもつかまえることが難しい「感情そのもの」を12年間生きてきた6年生はどのように考えるのか。実は、これまでのてつがく対話の中でも、「感情」に関わるやりとりはなされてきている。友達は「楽しさ」を2倍にしてくれる、永遠に生きられたら「寂しく」なる時がくる等である。

日常生活でもどれだけの「感情」を交流させているだろうか。もうすぐ中学生となるこの時期の6年生は、自分の「感情」に関心を向けている姿が多く見られるようになってきた。その「感情」に焦点を当て、考えを交流することで自分を見つめ、友達の背景まで考えられることを、本単元でねらう。

（内容—(3)イ・エ）

4 学習指導計画（3時間目／全5時間）

- ・「感情」と聞いて考えたことをてつがくノートに書く。 … 1時間
- ・「感情」をテーマとして対話するための問いを精選し、自分の考えをもつ。 … 1時間
- ・決まった問いをもとにてつがく対話を行う。 …本時1／2時間
- ・対話を通して考えた「感情」について、てつがくノートにまとめる。 1時間

5 本時の学習について

（1）本時のねらい

「感情」について考えたことを、自身の経験をもとにして表現する。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時までの対話をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークルの形で対話を始める。</li> <li>・前提条件を確認する。</li> <li>・前提条件の確認に時間をかけすぎないようにする。</li> </ul>
2 これまでの対話から生まれた問いについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、教師は以下のことを行う。 言葉を問い返すことにより、その意味を明確化する。 思いや根拠を問う。対話の内容の整理や確認を行う。</li> </ul>
3 本時をふり返り、さらに自分で考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで思いつかなかったことを考えたかどうか、自分の考えが変わったか変わらなかったかを自覚する。</li> </ul>